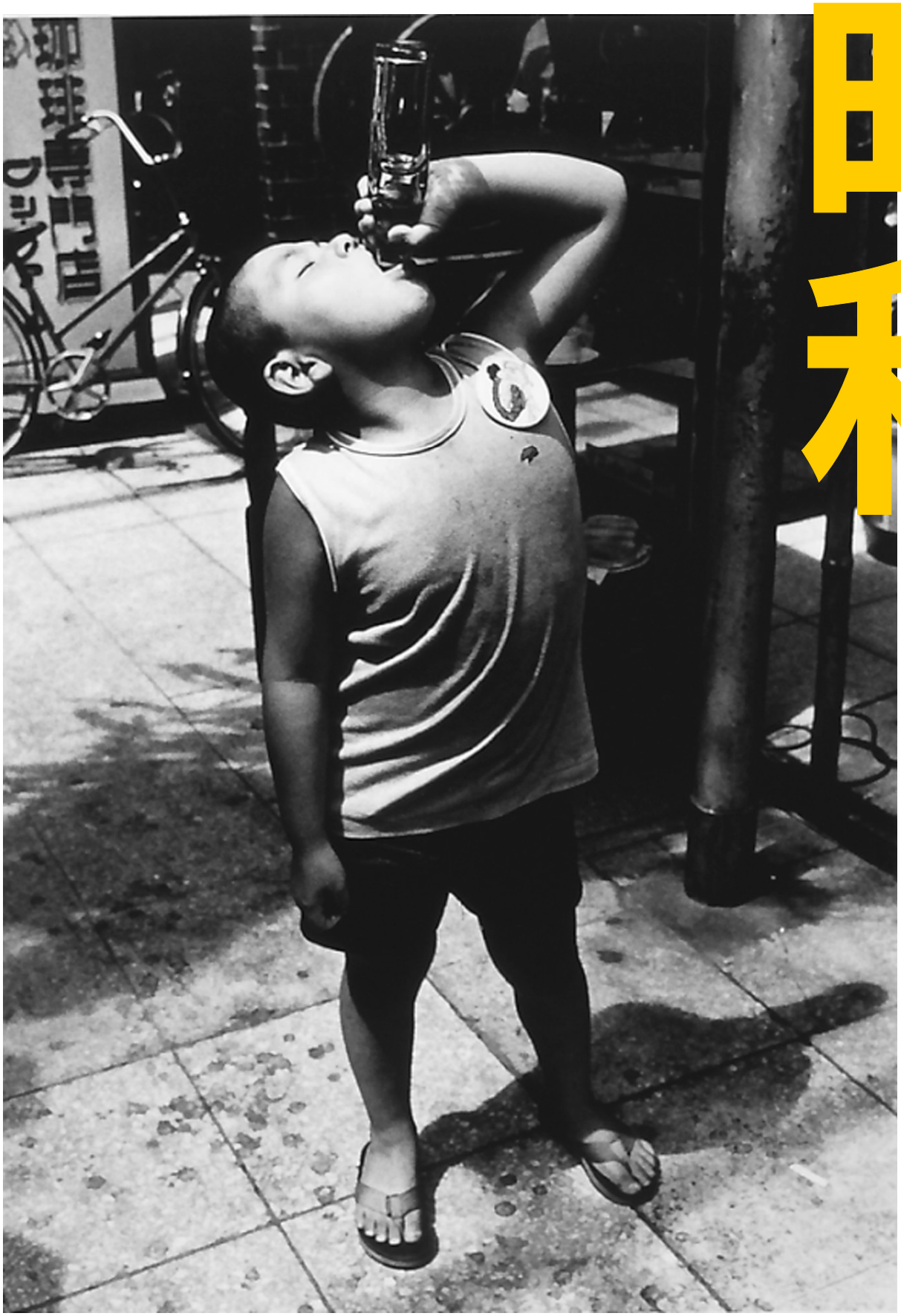


昭和写真の1945-1989

第4部「オイルショックからバブルへ」（昭和50年代以降）

開催期間：2007年10月20日（土）～12月9日（日）

会場：東京都写真美術館　3階展示室

「“昭和” 写真の 1945 - 1989 展 第4部」は、オイルショックからバブル、そして昭和最後の日。

元号が「昭和」から「平成」に代わり、早くも 20 年近い年月が経っています。戦後、日本はさまざまな変化を遂げました。それは焼け野原からの復興であり、人びとの生活の変化でもあります。そのような様子を、写真家たちはどの様に記録し、表現していったのでしょうか。

「“昭和”写真の 1945 -1989」展は、太平洋戦争が終わった 1945（昭和 20）年代から昭和が終わる 1989（昭和 64）年までを時代の幅として、写真家の鋭い現実認識と多彩な表現意欲によって記録・表現された戦後の「昭和」を、2 万 3000 点余におよぶ東京都写真美術館の収蔵作品の中から選りすぐられた約 600 点によって、４つのパートに分けて展開いたします。

シリーズ最終章の第４部は、オイルショックからバブル景気へと浮き沈みの激しい昭和５０年代から昭和最後の日までに焦点をあてます。

展覧会概要

■「昭和　写真の 1945 - 1989 展 第4部」■

「オイルショックからバブルへ」（昭和５０年代以降）

開催期間：２００７年１０月２０日（土）～１２月９日（日）

昭和 50 年代以降から平成と元号が変わる時期までに撮影された写真を紹介します。オイルショックによる経済の低成長からバブルへ突入したこの時代は、伝統的な地域社会や家庭が崩壊し、個人主義が蔓延した時期でした。写真家たちが、自らの内面を見つめながら、社会が孕む問題をどのように表現したかを、それぞれの多彩な写真表現から読みとることができるでしょう。本展を通して「昭和」という時代が何であったのか、平成の今、私たちが見失っている何かを再発見できるに違いありません。　　（担当：藤村 里美）

＜出品予定作家＞

石内都、伊奈英次、大西みつぐ、尾仲浩二、小林のりお、雑賀雄二、柴田敏雄、島尾伸三、須田一政、築地仁、土田ヒロミ、橋口譲二、畠山直哉、宮本隆司、山内道雄、山崎博、渡辺兼人ほか

＜展覧会構成＞

◆パート１：ゆるやかな崩壊

昭和 50 年代は高度成長期が終焉し、昭和 48（1973）年のオイルショックを経て、安定成長期と呼ばれる時代にさしかかっていた。終戦戦後や高度成長期に比べて、風景や人々の生活には眼に見える著しい変化は少ない。しかし経済の停滞は日本の基幹産業の変化を促し、伝統的な地域社会や家庭が崩壊し、個人主義が蔓延していった。

この時期の写真家の作品は、なにげない日常風景を撮影しているのに、個人としての視線を通しながら、記録的な視座に立ち、社会的な問題や時代背景を浮かび上がらせる、新しい方法論による作品が登場した。

◆パート２：内向する風景

若い写真家たちは自らの手で、自主ギャラリーを設立、運営し、ミニマガジンを創刊し始めた。この潮流は東京だけではなく、地方都市にも起こっていた。

新しい場を求めた写真家たちは、それぞれの方向に向かって自分たちの作品を表現している。自身の内面に向き合うような表現は、彼ら以前の世代の持つ強い主張やメッセージとは異なっていた。

◆パート３：変化する風景

昭和 60（1985）年代に入ると、「バブル時代」と呼ばれた未曾有の好景気時代が始まった。政府は内需拡大政策として低金利政策を実施し、そのために土地と株の値段が急騰したので

あった。そのために古い家屋を壊し、新しい大型ビルの建設が各地で行われ、見慣れた風景はどんどん変化していった。
写真家たちはその変化を、戦後の復興や高度成長期の時代とは違った視点で捉えていた。環境破壊や自然保護に対する社会の眼が変わってきたのもこの頃である。破壊と構築が繰り返される有様を、写真家は警告や危惧のメッセージを織り込ませ表現した。

第１部～第３部の概要は下記をごらんください（※第１部、第２部はすでに終了しております）

■第１部■
「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和２０年代）→展覧会は終了しました
開催期間：２００７年5月１２日（土）～6月２４日（日）
1951年のサンフランシスコ講和条約まで日本が占領下に置かれていた時代、日本からの海外に出される輸出品などのラベルには「Occupied Japan」と記されています。この言葉に象徴される時代において戦争の惨禍の後に、新しく都市が形成され、人々の価値観も大きく変化していきました。そして、写真家たちも新しい価値観をもってこの時代を捉えたのです。展示は、＜パート１＞廃墟－焦土からの出発　＜パート２＞オキュパイド・ジャパン－闇市・P.X.女性　＜パート３＞解放－エロスとリアル　＜パート４＞復興－「戦後と」いう風景、の４つのパートで構成しました。（出品点数１２５点）（担当：金子 隆一）

＜出品作家＞
山端庸介、濱谷浩、林重男、林忠彦、大束元、師岡宏次、中村立行、笹本恒子、木村伊兵衛、薗部澄、菊池俊吉、田村茂、福島菊次郎、大竹省二、樋口忠男、東松照明、稲村隆正、真継不二夫、杉山吉良、福田勝治、大辻清司、吉岡専造、三木淳、渡部雄吉ほか

■　第２部■
「ヒーロー・ヒロインの時代」（昭和３０年、４０年代パートⅠ）→展覧会は終了しました
開催期間：２００７年6月３０日（土）～8月１９日（日）
スポーツ選手から俳優、歌手、政治家まで、さまざまな煌めくヒーロー・ヒロインたちが活躍した昭和３０～４０年代。ポートレイト写真というジャンルを通して、エネルギーに満ちあふれたヒーロー・ヒロインの姿を捉えた写真家たちをご紹介。時代の顔というべきヒーロー・ヒロインの存在は、激動する昭和中盤の熱い時代の空気を、ダイレクトに私たちに伝えてくれました。（出品点数１２８点）　（担当：鈴木　佳子）
＜出品作家＞
秋山庄太郎、石井幸之助、石元泰博、稲村隆正、大竹省二、小川隆之、木之下晃、繰上和美、齋藤康一、佐藤明、沢渡朔、篠山紀信、ジョージ・S・シンベル、高梨豊、立木義浩、中村正也、林忠彦、早田雄二、藤井秀樹、細江英公、松島進、松本徳彦、三木淳、ウィリアム・ユージン・スミスほか

■第３部■
8/25より開催！
「高度成長期」（昭和３０年代、４０年代パートⅡ）
開催期間：２００７年8月２５日（土）～１０月１４日（日）
昭和３０年代は高度成長期時代を迎え、人びとの生活状況や都市の風景が急速に様変わりしていきました。写真家の視点もリアリズム的に場景を捉える写真から、それぞれの作家の持つ主観をうつしだす情景へと変化し、「コンポラ写真」や自分の私生活を表現していく「私写真」など、より内的な世界を表出するような写真が現れてきました。
（担当：藤村里美）
＜出品予定作家＞
荒木経惟、石元泰博、英伸三、川田喜久治、北井一夫、桑原史成、牛腸茂雄、小原健、薗部澄、高梨豊、田沼武能、田村茂、田村彰英、常盤とよ子、内藤正敏、長野重一、奈良原一高、東松照明、深瀬昌久、細江英公、森山大道、柳沢信ほか

「第４部」担当学芸員による展示解説
第４部展覧会開催期間中の第２・４金曜日１６時～担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会公式ガイドブック **「昭和の風景」** （新潮社「とんぼの本シリーズ」）

展覧会の主要作品を網羅し、その時代背景や写真史的な位置づけを担当学芸員がやさしく解説した、公式ガイドブック写真集です。
好評発売中！＜税込２１００円＞　Ａ５版２０８ページ（図版掲載数　約１６０点）

展覧会関連：連続講座『昭和の写真史』第４回
『写真装置』をめぐって
講師　大島　洋（写真家・九州産業大学教授）
日時　10 月 26 日（金）18:30～20:00

受講料：各回とも無料（※この講座では、新潮社『昭和の風景』を副読本として使用します。お持ちでない方の受講には、資料代 2,100 円（税込み）が必要となります。）
会　場：東京都写真美術館　１階アトリエ　　定員：40 名（当日先着順、各回とも 18:00 から受付開始）

＜開催概要＞

展覧会名称	「昭和」写真の１９４５－１９８９
主　催	東京都　東京都写真美術館
開催期間	◆第１部「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」（昭和２０年代） ２００７年5月１２日（土）～6月２４日（日）→展覧会は終了しました ◆第２部「ヒーロー・ヒロインの時代」（昭和３０・４０年代パートⅠ） ２００７年6月３０日（土）～8月１９日（日）→展覧会は終了しました ◆第３部「高度成長期」（昭和３０・４０年代 パートⅡ） ２００７年8月２５日（土）～１０月１４日（日）→8/25 より開催！ ◆第４部「オイルショックからバブルへ」（昭和５０年代以降） ２００７年１０月２０日（土）～１２月９日（日）
休館日	毎週月曜日（月曜が祝祭日の場合は翌日） ※ただし１０月１日（都民の日）は臨時開館します
観覧料	一般５００（４００）円、学生４００（３２０）円、 中高生・６５歳以上２５０（２００）円 ※（　）内は２０名以上の団体料金。※小学生以下、障害をお持ちの方とその介護者は無料。　※第３水曜日は、６５歳以上無料。
開館時間	１０：００～１８：００(木・金は２０：００)　※入館は閉館の３０分前迄

＜お問い合せ先＞

東京都写真美術館　事業企画課企画係　金子 隆一 r.kaneko@syabi.com（第１部担当）
鈴木 佳子 y.suzuki@syabi.com（第２部担当）
藤村 里美 s.fujimura@syabi.com（第３・４部担当）
事業企画課普及係　久代 明子 a.kushiro@syabi.com（広報担当）
島津 彰子 a.shimazu@syabi.com（広報担当）
〒153-0062 東京都目黒区三田１-13-3　電話 03-3280-0034　FAX 03-3280-0033

第４部　オイルショックからバブルへ　プレス用図版

1

2

3

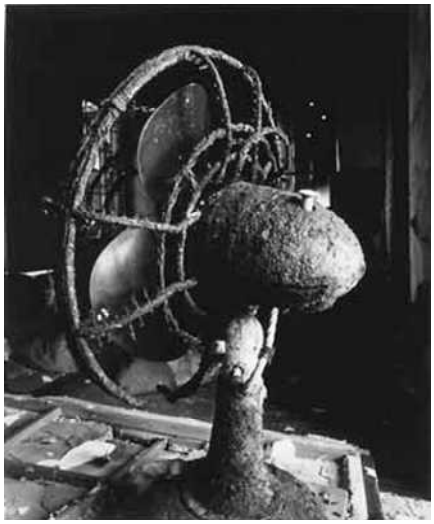
4

5

6

7

8

9


10

11

12

13

＜プレス用掲載図版：第４部「オイルショックからバブルへ」＞

表紙および１．山内道雄　東京　阿佐ヶ谷　1985年8月　　「街」より　昭和60(1985)年
２．石内　都　APARTMENT 「APARTMENT」より　昭和52-53(1977-1978)年
３．伊奈英次　新宿区　西新宿　1983 「IN TOKYO 」より　昭和58(1983)年
４．山内道雄　新宿区歌舞伎町 1984　『東京』より　昭和59(1984)年
５．築地　仁　写真像　＃5　「写真像」より　昭和56-58(1981-1983)年
６．伊奈英次　在日米空軍三沢基地第6920 電子保安軍 青森県三沢市　「ZONE」より　昭和62（1987)年
７．山崎　博　海をまねる太陽　No.5　　昭和53(1978)年
８．畠山直哉　「ライム・ヒルズ」より　昭和63（1988)年
９．雑賀雄二　「軍艦島―棄てられた島の風景」より　昭和60(1985)年
１０．川田喜久治　昭和最後の太陽　「空と夢」より　昭和64(1989)年
１１．土田ヒロミ　砂を数える「砂を数える」より　昭和56(1981)年
１２．荒木経惟　「写真論　1988-1989」より　平成元（1989)年
１３．宮本隆司　筑波科学博覧会パヴィリオン、筑波　「建築の黙示録」より　昭和60(1985)年

＜掲載上の注意＞１．図版はトリミングできません。　２．図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください　３．掲載前にゲラを拝見させていただきますようご配慮をお願い申し上げます　４．お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます　５．作品図版は実際の展示と異なる場合があります。　６．掲載紙をご寄贈いただきますようお願い申し上げます。